

10月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎ （7日）衆議院議員選挙の実施
- ◎ （10日）ベンキランPJD党首の首相指名
- ◎ （18日～25日）モハメッド6世国王のルワンダ・タンザニア訪問
- ◎ （28日～）魚行商人の死亡事件に対する抗議やデモの拡大

<内政・政局・治安>

1 内政

（1）衆議院議員選挙の実施

（ア）7日、衆議院選挙が行われ、PJD（公正と発展党）が前回2011年選挙を18議席上回る議席数（125議席）を獲得し、勝利した。特にカサブランカ、ラバト、フェズ、マラケシュ、タンジェ、ケニトラといった大都市部において、PJD候補者は圧倒的な得票率を得て当選順位1位の地位を獲得した。他方、PAM（真正と現代党）も前回選挙比55議席増の102議席を獲得したが、PJDに対する民衆からの根強い人気には及ばなかった。

（イ）PI（イスティクル党）などの伝統的な政党や、USFP（人民勢力社会主義同盟）、PPS（進歩社会主義党）など左派政党は大きく議席を減らし、PJDとPAMが2党で6割近い議席を獲得するなど、二極化が進んだ。最低得票率の低下（6%から3%）も、懸念されていた小政党の乱立にはつながらなかった。

（ウ）投票率は前回選挙（45%）から微減の43%であり、約1570万人の選挙人登録者のうち約680万人が実際に投票を行った。

（エ）ベンキランPJD党首は選挙結果中間発表後の記者会見で、すべてのPJD出身閣僚と党執行部は当選した旨述べつつ、敵対勢力による策略があったものの、国民はPJDへの信任を新たにすると発言した上で、「今日は民主主義にとって栄光の日となった」と述べた。また、同党首は選挙結果発表後のインタビューで、PAMを除く全政党との連立の可能性を残していると述べた。エル・オマリPAM党首は、モロッコにおい

て進歩的かつ民主主義的な社会を構築することが重要である旨述べた上で、今次選挙で PAM が第 1 党の地位を得られなかったからと言って、PAM がモロッコ国民を見捨てるというわけではなく、モロッコ国民とその利益を守るために野党として活動していく旨述べた。

(2) モハメッド 6 世国王によるベンキラン PJD 党首の首相指名

(ア) 10 日、モハメッド 6 世国王はベンキラン PJD 党首を次期首相に指名し、組閣を開始するよう求めた。ベンキラン PJD 党首はムスタファ・ラミッド法務大臣 (PJD) に付き添われ、カサブランカ王宮に赴いていた。

(イ) 憲法は、国王が衆議院選挙の第 1 党から首相を指名すると規定しており、首相に指名された者は閣僚リストについて (王宮と) 協議を行い、国王の承認を得る必要がある。

(3) 衆議院選挙で当選した 12 名の閣僚の辞職

20 日、閣僚職と国会議員職の兼務を禁止する衆議院組織法に従い、10 月 7 日の当国衆議院選挙で当選した以下の 12 名の閣僚が辞職した。

- ① ラハセン・ダウディ 高等教育・科学研究・幹部要請大臣
- ② ラハセン・セクーリ 青少年・スポーツ大臣
- ③ アジズ・ラバハ 設備・運輸・ロジスティクス大臣
- ④ ムスタファ・ハルフィ・コミュニケーション大臣兼報道官
- ⑤ アブドゥルカデル・アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣
- ⑥ ラハセン・ハッダド 観光大臣
- ⑦ アブドゥラジズ・エル・オマリ 国会関係・市民社会担当大臣
- ⑧ ムバルカ・ブーアイダ 外務・協力大臣付特命大臣
- ⑨ モハメッド・ムーブディ 首相付公職・行政近代化担当特命大臣
- ⑩ イドリス・エル・アザミ・エル・イドリッシ 経済・財政大臣付予算担当特命大臣
- ⑪ モハメッド・アブー産業・貿易・投資・デジタル経済大臣付対外貿易担当特命大臣
- ⑫ モハメッド・ナジブ・ブリフ 設備・運輸・ロジスティクス大臣付運輸担当特命大臣

(4) アハヌーシュ 農業・海洋漁業大臣の RNI 党首就任

(ア) 9 日に開催された RNI 政治局会合でメズアール党首 (外相) は今次選挙の責任を取り、また、COP22 準備運営委員会委員長として今後多忙を極めることから、党首辞任を申し出た。12 日、これを受け、再度開催された同党政治局会合で、メズアール大臣の党首辞職が受け付けられた。

(イ) 29 日、RNI 臨時党大会が開催され、アハヌーシュ 農業・海洋漁業大臣が 1832 票のうち 1707 票を獲得し、同党新党首に選出された。アハヌーシュ新党首はこの臨時党大会において、7 日の衆議院選挙で議席数を減らした同党に、新しい風を導く

旨述べた。

2 治安

(1) 10名の女性テロリスト逮捕

(ア) 3日、中央司法捜査局（BCIJ）は、ISILと連携した10名の女性からなるテロ細胞を解体した。逮捕者のほとんどが未成年であり、なかでも15歳（2名）、16歳（2名）及び17歳（3名）が参加していた。この細胞はケニトラ、タンタン、シディ・スリマン、サレ、タンジェ、ウラド・タイマ（当国南部アガディール近郊）、ザゴラ及びシディ・タイビ（ケニトラ近郊）で活動していた。

(イ) 逮捕者はISILに忠誠を誓い、モロッコ国内における自爆テロ攻撃を行うため、爆発物製造に必要な原材料を得ようとしていた。この細胞は7日の衆議院選挙当日にテロを行うことを計画していたとみられている。今回の摘発により押収した爆発物製造のための原材料となる物質は科学鑑定に付される。

(ウ) 逮捕者の一部には家族がISIL戦闘員である者もあり、イラク・シリアにおいて活動するISILの対外活動ユニットやその他の地域で活動するISILとも連携していた。この細胞は自爆テロのみならず、シリア・イラクにおけるISIL女性戦闘員の募集も任務としていた。

(2) 3日に逮捕されたテロ細胞と連携していた2名の逮捕

(ア) 9日、BCIJの捜査により、3日に逮捕された10名の女性からなるテロ細胞と連携していた2名が逮捕された。この捜査により、同者ら（容疑者のうち1名は、3日に逮捕された容疑者のうち1名の兄弟）がゲルミム（モロッコ南部）の農場から爆発物に関する化学物質を入手しようとしていたことが明らかになった。

(イ) また内務省の声明によれば、この捜査により容疑者のうち1名から爆発物に関する化学物質の手書きのリスト及びISILの旗を押収したほか、同者の住居の壁にISILを賞賛することを記した筆跡を発見した。

(3) スペイン治安当局との連携による2名のISIL支持者からなるテロネットワークの解体

(ア) 12日、BCIJはスペイン治安当局と連携し、テトゥアン及びフニデク（テトゥアン近郊）で活動していた2名のISIL支持者からなるテロネットワークを解体した。

(イ) このオペレーションはモロッコ・スペイン間の戦略的な治安協力関係によるものであり、スペインにおいても2名の共犯者が同時に逮捕された。また、このテロ細胞のメンバーはISILのジハードのための戦闘員の募集や派遣について、シリア・イラクで活動する戦闘員と緊密に連携していたことが明らかになっている。

(4) ISILを支持する過激主義者1名の逮捕

(ア) 24日、BCIJはティフレでISILを支持する1名の過激主義者を逮捕した。

エンジニアの研究を続けていたこの容疑者は、モロッコの重要施設に対し自爆攻撃を実施するため、爆発物の製造及び準備に大きな関心を寄せていたことが判明した。

(イ) 家宅捜査により容疑者の過激志向が確認されており、爆発物製造準備のための化学物質の配合レシピを含む文書、電線、電圧計及び疑わしい物質の入ったビンが押収された。これらの押収品は当局の専門部署の手に委ねられることとなる。

(5) 魚行商人の死亡事件に対する抗議やデモの拡大

(ア) 28日夜、リフ地方アル・ホセイマで30歳前後の魚介類の行商人ムフシン・フィクリが、当局による同人所有のメカジキの押収及び廃棄に抵抗しようとしたところ、ゴミ収集車に巻き込まれ、死亡した。同人の死亡により、モロッコに怒りと抗議の波が巻き起こり、当局は本件に関する責任者を罰する旨表明した。同人の悲惨な死亡状況は携帯電話で録画され、インターネットで拡散された。頭と腕が圧縮機から出た同人の死亡写真がSNS上で広く拡散され、人々に衝撃を与えるとともに、国中に抗議を呼び起こした。

(イ) 30日、「殉教者ムフシン」に敬意を払い、数千人がこの若者の葬儀に参列し、アル・ホセイマの静かな中心街を遺体が埋葬されたイムズレン（アル・ホセイマ近郊）まで数時間行進した。同日夜、人波がアル・ホセイマの中心街に押し寄せ、集会は21時半まで繰り広げられた。小規模なデモは、カサブランカ、マラケシュ及びラバトといったリフ地方以外の都市でも行われた。31日にもアル・ホセイマで数千人規模の新たなデモが行われた。

(ウ) 30日、タンザニアを訪問中のモハメッド6世国王は、アル・ホセイマにハッサド内務大臣を派遣した。同29日に内務省は地方検察との共同捜査の開始を発表しており、国王は綿密かつ徹底的な捜査を行うよう指示した。また、同内相は「故人の家族に国王の哀悼と同情の意を表した」と述べた。

<外交・国際関係>

1 アフリカ関係

(1) モハメッド6世国王のルワンダ公式訪問

(ア) 18日から23日まで、モハメッド6世国王は、ムーレイ・イスマイル王子とともにルワンダを公式訪問した。国王の今次ルワンダ訪問には、エル・ヒンマ国王顧問、ズナギ国王顧問、ハッサド内務大臣、メズアール外務・協力大臣、ブーサイド経済・財政大臣、アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣、ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ほかが行した。

(イ) 19日、モハメッド6世国王はカガメ・ルワンダ大統領とテタテートで会談を行い、その後両国外相等がこれに加わった。会談後、メズアール外務・協力大臣は、両国間の関係を更に強化する意思を確認した旨述べつつ、アフリカ大陸における諸課題に協力して取り組むことを確認した旨述べた。また、会談に同席したブリタ外務・協力大臣付特命大臣も、今次訪問はモロッコ・ルワンダ関係の新たなページを開くものである旨述べた。

(ウ) 同首脳会談に先立ち、モハメッド6世国王とカガメ大統領は、二国間協力の様々な分野における19の政府間協定・民間セクター協定の署名式を執り行った。署名された協定は以下のとおり。

- ① 一般協力協定
- ② 政治協議メカニズム設立のための覚書
- ③ 航空サービス協定
- ④ 外交・公用・特別旅券保持者に対する査証免除協定
- ⑤ 治安協力協定
- ⑥ 二重課税・所得税支払い回避防止協定
- ⑦ マイクロファイナンス実施のためのルワンダ財務・経済計画省とモロッコ人民中央銀行間のパートナーシップ協定
- ⑧ ルワンダ財務・経済計画省とモロッコ人民中央銀行間の一般協定
- ⑨ 投資促進・保護協定
- ⑩ モロッコ観光公社（ONMT）とルワンダ開発委員会（RDB）間のパートナーシップ協定
- ⑪ ルワンダ政府とモロッコ薬剤協力公社間の覚書
- ⑫ カサブランカ・ファイナンス・シティ庁（CFCA）とRDB間の協力覚書
- ⑬ アフリカ技術研究所設立にかかる覚書
- ⑭ ルワンダにおける経済特区開発・推進パートナーシップ設立のための覚書
- ⑮ モロッコ経団連（CGEM）とルワンダ民間セクター連盟（PSF）間のモロッコ・ルワンダ商工会議所設立のための協定

⑯ MASENとルワンダ・エネルギー・グループ間の再生可能エネルギー開発のための覚書

⑰ キガリにおける5千の経済住宅建設融資のための覚書

⑱ アティジャリワファ銀行と銀行総合会社（Cogebanque）株主間の協定

⑲ アティジャリワファ銀行による投資・貿易の促進保護のための覚書

（2）モハメッド6世国王のタンザニア公式訪問

（ア）23日から25日まで、モハメッド6世国王は、ムーレイ・イスマイル王子とともにタンザニアを公式訪問した。国王の今次タンザニア公式訪問には、エル・ヒンマ国王顧問、ズナギ国王顧問、メズアール外務・協力大臣、トゥフィク永代財産・イスラム宗教大臣、ブーサイド経済・財政大臣、アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣、ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ほか同行した。

（イ）24日、モハメッド6世国王はマグフリ・タンザニア大統領とテタテートで会談を行ったほか、22の政府間協定・民間セクター協定の署名式を執り行った。署名された協定は以下のとおり。

① 経済・科学・文化協力枠組み協定

② 政治協議メカニズム設立協定

③ 炭化水素・エネルギー・鉱物・地質分野の協力協定

④ 航空サービス協定

⑤ 小規模農業従事者に対する統合支援のための協定

⑥ 海洋漁業分野における覚書

⑦ 経営者間パートナーシップ協定

⑧ 王立リン公社（OCP）とタンザニア肥料会社（TFC）間の覚書

⑨ 再生可能エネルギー分野の協力覚書

⑩ モロッコ観光公社（ONMT）とザンジバル観光委員会間の協力覚書

⑪ クレディ・アグリコル・モロッコ社とタンザニア農業開発銀行間の覚書

⑫ タンザニアにおける文化保護のための協力覚書

⑬ 産業・流通セクターの開発・推進のための覚書

⑭ タンザニアにおける港湾と産業間の流通・鉄道回廊開発覚書

⑮ モロッコ王立航空（RAM）とタンザニア航空間の協力覚書

⑯ タンザニア民間リハビリテーション病院建設のための再融資協定

⑰ BMCEアフリカ銀行タンザニア支店とレイク・ガス・タンザニア社間の協定

⑱ BMCEアフリカ銀行タンザニア支店とスーパースター・フォワードーズ社間の協定

⑲ アフリカにおける貿易・投資の推進・融資のための協力協定

⑳ アフリカ開発銀行とモロッコ人民中央銀行間の協定

㉑ モロッコ保険・再保険協会とタンザニア保険協会間の技術協力覚書

② 高品質の茶の付加価値付けユニット設立にかかる協定

(3) モハメッド6世国王とデビー・イトゥノ・チャド大統領の電話会談

(ア) 31日、モハメッド6世国王は、国王のアフリカ諸国歴訪の一環として、デビー・イトゥノ・チャド大統領と電話会談を行った。この会談の中で、両国首脳は、モロッコ・チャド両国を結びつける2国間協力関係の高い水準を歓迎した。

(イ) モハメッド6世国王は、第27回AUサミット議長であるデビー・イトゥノ大統領に対し、9月22日に提出されたモロッコのAU加盟申請書をAU加盟国に配布するよう、ズマAUC委員長に介入することを要請した。これに対し、デビー・イトゥノ大統領はモハメッド6世国王の要請に好意的に反応し、この点に関し必要なことを行う旨述べた。

2 欧州関係

(1) ハッサド内務大臣とデメジエール独連邦内務大臣の会談

(ア) 9月に行われたモハメッド6世国王とメルケル独大統領の電話会談を受け、12日、ハッサド内務大臣はベルリンでデメジエール独連邦内務大臣と会談を行った。会談後の記者会見で、ハッサド大臣は、治安及び移民分野における独との関係強化の意思を表明した。また、同大臣は、とりわけ資金洗浄、組織犯罪・麻薬・テロ撲滅の分野における治安協力強化のための2国間協定の交渉を行っており、この交渉は最終段階にある旨述べた。また、同大臣は、今次訪問の目的として、不法入国者の送還を容易にするためのモロッコの意味を再表明するためであったと述べつつ、この問題を解決するために専門家レベルで協議を続ける旨述べた。

(イ) デメジエール独連邦内務大臣は、モロッコとの治安協力レベルを模範的な水準まで高めたい旨述べつつ、特にテロ対策と組織犯罪対策の分野での協力関係の向上を訴えた。

(2) メズアール外務・協力大臣の地中海5+5対話外相会合出席

28日、メズアール外務・協力大臣は、エロー仏外務・国際開発大臣とともに、地中海5+5対話外相会合の共同議長を務めた。メズアール大臣は共同記者会見で、地中海地域に固有の問題に対処するために本国会合を重視している旨述べるとともに、2015年はポルトガルと、2016年は仏と共同議長を務めた旨述べつつ、参加各国は共同議長としてモロッコが務めた役割を歓迎したと述べた。

＜モロッコ要人の外国訪問＞

日付	国	氏名・肩書き	目的
10月7-9日	米国	ブーサイド経済・財政大臣	世銀総会及びIMF総会出席
10月12日	ドイツ	ハッサド内務大臣	デメジエール連邦内務大臣との会談
10月14日	イタリア	ララ・ハスナ王女	第33回世界食料デー公式式典出席
10月18日	アルバニア	ララ・メリアム王女	レカ2世王子結婚式出席
10月18-23日	ルワンダ	モハメッド6世国王, ムーレイ・イスマイル王子, エル・ヒンマ国王顧問, ズナギ国王顧問, ハッサド内務大臣, メズアール外務・協力大臣, ブーサイド経済・財政大臣, アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ほか	公式訪問(カガメ大統領との会談, 二国間協定署名式出席等)
10月21日	ポルトガル	ララ・サルマ王女	ソウザ大統領表敬, 第3回リヴィエラ舞踏会出席
10月23-25日	タンザニア	モハメッド6世国王, ムーレイ・イスマイル王子, エル・ヒンマ国王顧問, ズナギ国王顧問, メズアール外務・協力大臣, トゥフィク永代財産・イスラム宗教大臣, ブーサイド経済・財政大臣, アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ほか	公式訪問(マグフリ大統領との会談, 二国間協定の署名ほか)
10月25日	カタール	ムーレイ・ラシッド王子	シェイク・カリファ・ベ

			ン・ハマド・アル・サーニ（カタール首長の祖父）死去に対するモハメッド6世国王からの弔意の伝達
10月28日	仏	メズアール外務・協力大臣	地中海5+5対話外相会合出席

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
10月18日	スペイン	イグナシオ・イバニェス 外交長官	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談

(了)